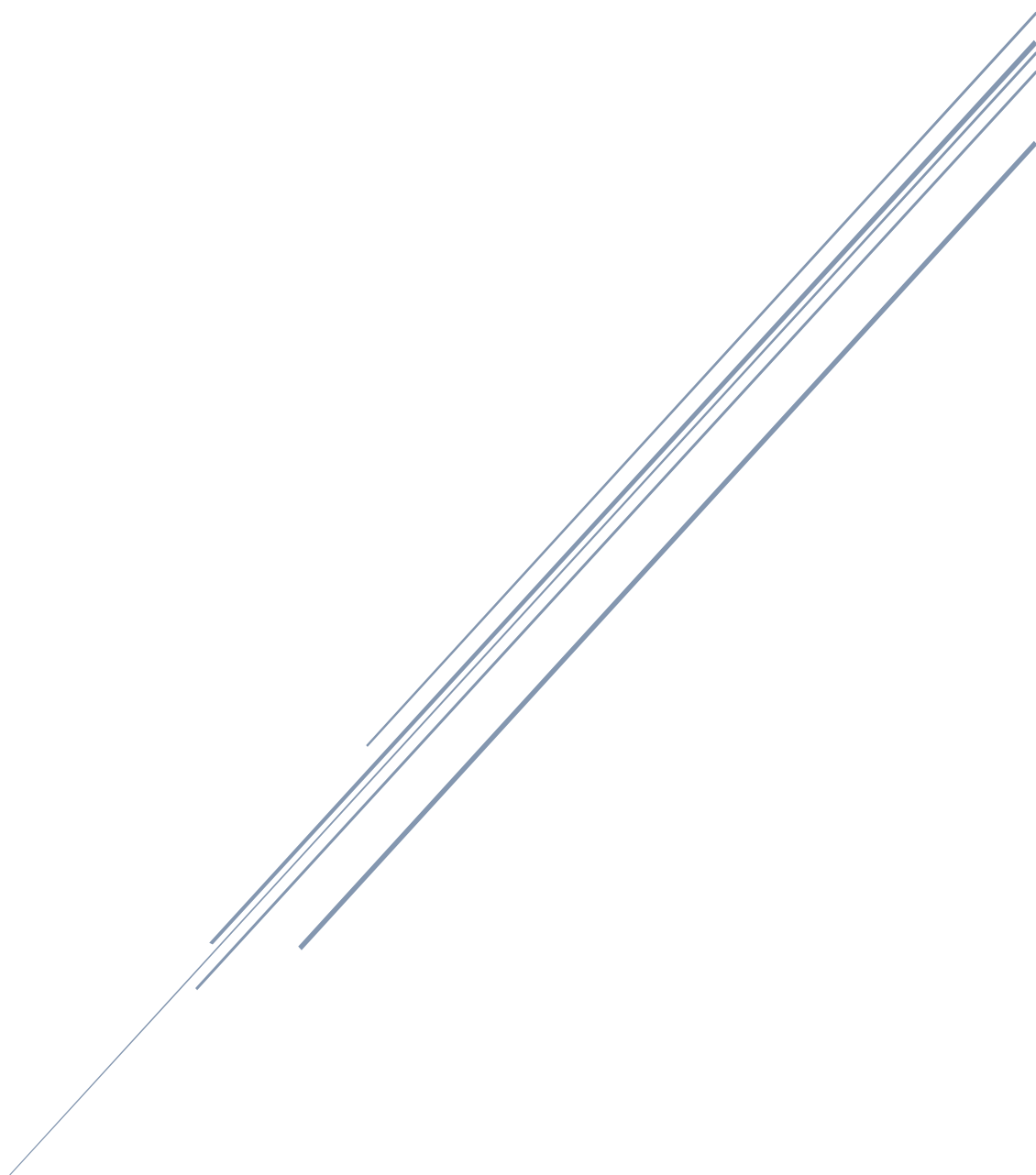


2025 公開研究会

アンケート集計結果



山梨県教育研究所

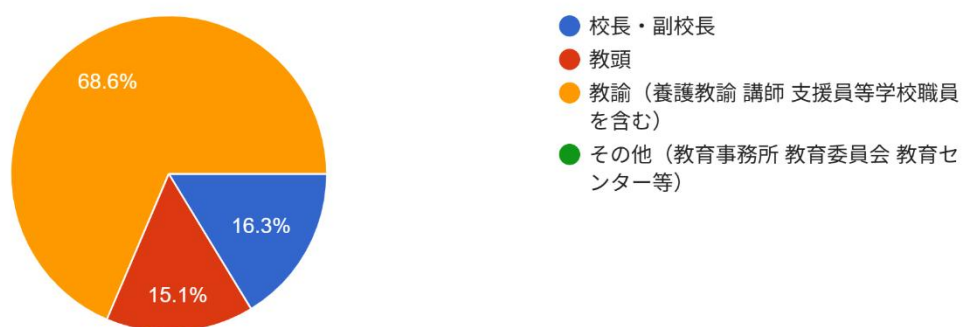
実施日 2025 年 8 月 5 日

参加者数 271 名

回答数 172 件

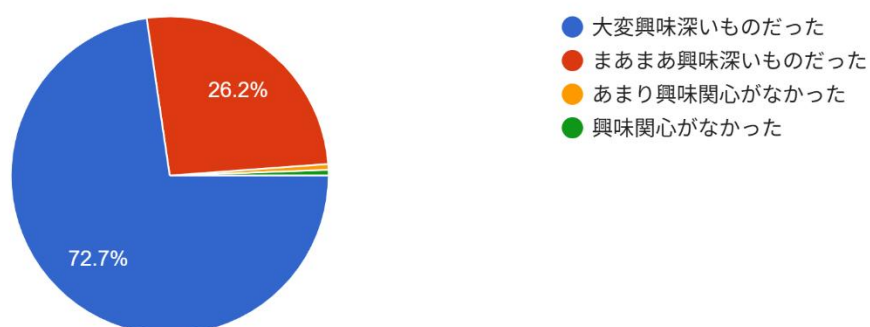
参加者のお立場をお答えください。

172 件の回答



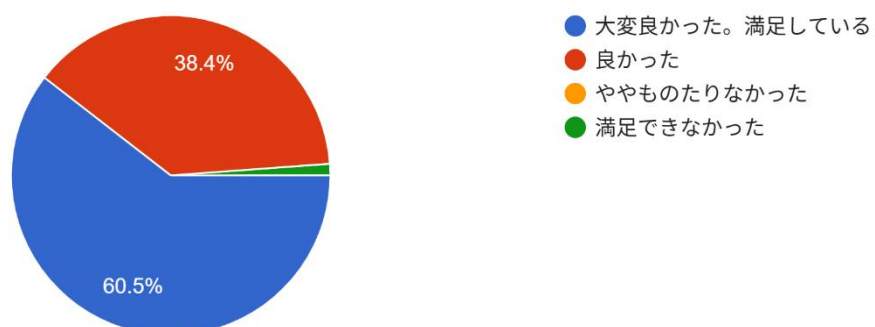
今回の講演内容について、興味・関心度をお聞かせください。

172 件の回答



講演について、満足いくものでしたか。4段階で評価してください。

172 件の回答



講演への御意見・御感想

歴史的に教育を見ることがなかったため、とても勉強になりました。カリキュラム・オーバーロードについて、モヤモヤとしていたことを大森先生が言葉にしてくださっている感じがして、お話を伺って「その通りです」と思うことばかりでした。私たちは、子どもたちと学びを楽しめるよう、子どもの思いに寄り添って学習を工夫していくことは当たり前だと思います。ですが、時期学習指導要領の改訂で、現場の裁量に頼りすぎない指導内容の量と時数削減が盛り込まれることを願うばかりです。

具体的な数字を出していただきながら、今の教育課程の問題点、私たちの取り組むべきことがはっきりしました。ありがとうございました。

現代の教育課程の現状、そして課題を把握することが出来ました。これからの教職に、本日得られた知識を生かしていきたい。

カリキュラム・オーバーロードを解消するための提案には大いに共感した。今年度、本校では県教委主催の働き方改革ワークショップを行ったが、視点は専ら自校で何ができるかだった。真の働き方改革を進めるのなら、カリキュラム・オーバーロードを解消するなど、今の仕組みを変えようとする方向に舵を切るのが最適解だと考えている。我が国や本県が、今後、そのような流れを作れないようならば、文部科学省や県教委には失望せざるを得ない。

現状や問題点が明らかになりました。

教育課程が児童のために現在も議論されていることを知り、勉強になった。

タイムリーな内容でとても勉強になりました。

カリキュラムマネジメントの面でも参考になる内容でした。

教育のあり方について考える良い機会となりました。ありがとうございました。

今、タイムリーな内容について学習できてよかったです。管理職として教育課程という視点で学校経営していく必要性を改めて感じました。

自分や子ども達を感じる負担感や忙しいと感じる感覚は正しいのだと感じました。

今回の講演を受けて、カリキュラム・オーバーロードについて、課題意識を持つことができました。特に、授業時数が多いことが教員だけでなく、子どもたちに大きな影響があることを改めて理解することができました。

子ども、教員共にゆとりがなく生きているとおもいます。ゆとりある学校、人生のために時数ガイドラインの実現を強く願っています。

若手の教職員が増加する中で、ベテランが獲得してきた裁量をどう引き継いでいくのかという課題に気づきました。ありがとうございました。

もがいていることが数値化、具体化され、半ばすっきりしたものの、解決には課題が多いと感じる

喫緊の課題への示唆をいただけて、勉強になりました。国の動向を見守りつつ、声を上げていくことで、改善されていくことを期待しています。

教育課程基準の変遷やカリキュラム・オーバーロード等について知ることができてよかったです。資料により大変わかりやすい内容であった。

データに基づき現状把握できました。提言もあり大変有意義な研修となりました

今回はとても有意義でした。私自身も授業をやっていて子供にとって効率的なのか疑問に思うことがありました。カリキュラムについてももう一度考えるいいきっかけになりました。

数字で表されていたので、一目瞭然で、面白かった。

標準時数や学習内容の多さと、その負担について考える機会になりました。子どものために今どのように取り組んでいくのが良いか職場で話したいと思いました。

1日の授業時数での説明がとても分かり易かった。子どもたち、先生方共に笑顔で毎日の授業に臨める環境作りに改めて取り組んでいきたいと感じた。ありがとうございました。

現在の教育現場に沿った内容で、日々の学校生活の様子を振り返りながら聴くことができて良かった。

教育課程の変遷、歴史について知ることができました。現場の意見を大事にしながら、学校と児童に合わせたよりよいカリキュラムづくりの工夫を行っていければと思います。

今自分たちにできることをしっかり検討していく事が大切だと感じた。

時数ガイドラインの提案、教育課程に対する声をあげていくなど、大変興味深くお話を伺いました。今後実際に改善実施されていくかが重要だと思います。小さいながらも声をあげていきたいと思います。

忙しい、やりきれないということが能力ではなく数字として出てきてよかったです。

カリキュラムオーバーロードに関わって歴史的な背景を数字を元にわかりやすくお話ししていただき、大変勉強になりました。先生の言われる時数のカリキュラムが作られることを心から願ってなりません。

カリキュラムオーバーロードについて、国が何を定めていて学校の裁量は何かということを整理していただき、現場感覚と合わせて、数字でも実感がわきました。また、含意という言葉には教育行政の隠された意図を感じます。そういうものを、発信していただきたいと思いました。

カリキュラムオーバーロードについて、わかりました。どのようにしていけば、縮小されるのかが、示されると良かったです。

日々追われる毎日で回数に関してあまり考えていなかったが、なるほどと思いました。これからは意識してすごそうと思いました。

資料も提供してくださりありがたい。職場に還流したい。

具体的な数値で示しながら現状を説明していただき参考になりました。

働き方を考えても子どもたちとの触れ合いを考えても、時数のさくげん、内容の削減が必要だと感じた。

余裕のない子どもたちや余裕のない我々教職員を当たり前に思って過ごしていました。これからは、置かれた立場を当たり前と思わずに、改善を考えていこうと思いました。とても勉強になりました。ありがとうございました。

次期学習指導要領において、関心の強い内容だったので、お話を伺うことができてよかったです。

カリキュラムオーバーロードは、今の学校現場でも特に大きな課題だと感じています。国が定めていることで、なかなか現場にできることには限りがあるかもしれませんが、私たち教員が子どもたちのためにも声を上げていくことが大切だと改めて感じました。歴史的にみていくと、今がどれだけ詰め込まれ過ぎているかがよくわかり、これではダメだと改めて感じました。関心があった問題でしたので、お話を聞けてよかったです。本当にありがとうございました。

子供のために、ゆとりをもちながら指導にあたることの大切さを改めて感じました。決められたカリキュラムを、工夫しながらこなしていったり、カリキュラムの見直しを訴え続けたりすることも必要だと思いました。

現状や制度、これまでの学習指導要領や授業時数の制定がどのように変遷していったのかを知ることは、一教員にとっても必要な見識であり、その理解によって現場で何ができるのかを考える手助けになると感じました。

日々の業務に追われる日々だが、カリキュラムオーバーロードについて問題意識を持つようにしたい。

カリキュラムオーバーロードについて、改めて考える良い契機となりました。ありがとうございました。

言葉だけ先行している感じがするカリキュラムオーバーロードというものの実際についてよくわかるお話だった。

カリキュラム・オーバーロードの現在、各学校での裁量が、子どもたちの豊かな活動につなげて行かなければならないと、改めて感じました。

教育課程の歴史や現状について理解でき良かったが、現状は変わらず、今後どうしたら良いか、良くなっていくのか、不安が強く残っ

た。

カリキュラム・オーバーロードについて詳しく知ることができてよかったです。

標準時間数の変化や問題点について詳しく知ることができてよかった。現場において何ができるのか考えていきたい。

カリキュラムオーバーロードについて詳しく教えていただき、現在の課題についてよく理解することができました。歴史的な背景から現在の教育を考えてみると、現在の教育課程がいかに厳しいものかということが明らかでした。今の教育活動を当たり前だと思わず、目の前の子どもたちの実態をみながら、工夫できるところをしていかなければと思いました。

数値や内容の根拠に基づき、カリキュラムオーバーロードの状況を理解できた

大森先生がまとめていらっしゃるアンケートのなかで、授業時数（6校時）が増えることで、放課後の時間に、欠席した生徒や理解が不足している生徒に補修を行う時間が確保できなくなったという言葉聞いてはっといたしました。たしかに、現在ではこうした時間が確保できなくなってきたと思います。これは、生徒にとっても残念なことに思います。

本校は40分授業を実施し、その成果と課題が見えてきたところで、大変興味深いお話でした。

カリキュラムオーバーロードに対する認識を改めることができました。児童生徒の学びが楽しく、深いものになるよう様々な制度が整備されていくことを願います。

子供の生活と学習に合った時数を見極めて設定するという部分がとても共感できました。子ども達の教育をより充実させていけるよう

に私たちも日々頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

学習指導要領改訂の大きな注目ポイントである年間総授業時数等をテーマに話をしていただき、大変興味深かった。学校の教育活動における「余白」「余裕」の必要性を改めて感じた。

これまでの教育、そして今後の教育について、改めて考える機会となりました。子どもたちにとってよりよいものを、カリキュラム含め、私たち大人が創っていけると良いです。

カリキュラムがどれだけ学校現場に影響を及ぼしているのか考えさせられました。教育の目的の主語を「子ども」に置き換えて進めていく必要があると感じます。

実際に現場にいても、教育課程をこなすことに必死なため、子どもと向き合う時間が昔と比べるととても短いと感じていました。大森先生のお話で、どうしてこのような現状になっているのかがよく分かりました。一教員なので、自分自身どのようにしていったらいいのかは、正直まだわかりませんが、学校という組織の中の一員として声を上げていくことの大切さを実感しました。

現在の教育課程はカリキュラム・オーバーロードになっていることについて、分かりやすく説明を頂けて良かったです。子どもたちが無理なく学習を進められるよう、カリキュラムマネジメントを行っていく必要があると感じました。

大森先生の講演を拝聴し、具体的な数字をもとに子どもたちや私たちの負担増が可視化され、とてもわかり易かったです。かつて学校現場に存在した裁量が失われ、ゆとりがなくなっているというご指摘に深く納得しました。不登校の急増と標準時数の増加がデータで結びつけられ、教育課程が子どもに与える影響の深刻さを再認識しました。子ども主体

の教育課程へと転換する必要性を痛感する、大変示唆にとんだ内容でした。

解決していかなければならない課題は多岐にわたるが、教員が仕事にやりがいを感じられる職場を早急に実現したいと強く感じた。

普段感じている、負担感などを現場の声としてしっかり伝えていくことが、自分たちにとってだけではなく、子どもたちにとっても大切だと感じました。貴重なお話をありがとうございました。

今、抱えている問題なので参考になった。

なかなか子どもと直接関わるための時間が確保できず、生徒理解が不十分なために起こるトラブルもあるように思います。用意できる時間の中でやるべきことは精選していくべきだと改めて思いました。

私には、まだ早い内容でしたが、いずれ考えなければならぬ立場になることを考え、学習させていただきました。

感覚的に感じていたものを過去からのデータで知ることができたり、長く教員で働かれている先生の経験から話が聞けたりし、相対的にカリキュラムオーバーロードだということがわかりました。本日は講演ありがとうございました。

大変わかりやすく、また現場の人間として考えさせられる内容でした。ありがとうございました。

日々の忙しがどこからきているか、具体的な数値を見ることで明らかになりました。子どもたちを1番に考えた教育課程基準や教育課程が作られるよう、今後も声を上げていきたいと思います。

現場の肌感覚でカリキュラムオーバーロード

や多忙感、子どもの苦しさを感じてきたが、本日の講演を聴きあらゆる背景や要素が絡み合っカリキュラムオーバーロードになっていることがわかった。子どもたちを出発点にした教育課程や教育課程基準にすべきだという点は、まさにその通りだと感じた。過去と比べて子どもたちはたくさんことができるようになった反面、困難さを抱える子どもたちも増えている。内容から時数や学習のあり方を考えるのではなく子どもたちの姿から時数や学習のあり方を考えていくように変わっていくとよいと思う。私たちも与えられた学習内容、時数を鵜呑みにせずに、最低限やるべきことを見極めた上で、どのような学びをつくっていくべきかを考えて実践をしていきたい。何より子どもたちと笑顔で心と時間のゆとりをもって関われるような学校現場、そのための学習指導要領や教育課程になると良いと思う。

カリキュラムオーバーロードについて深く考える機会をいただきました。これまで教員の工夫と努力でなんとか成り立ってきた教育も、限界を迎えているように思います。不登校増加も子供達のやることに追われる苦しみの悲鳴のように思いました。子供にとって本当の意味でよい教育とは何か、子供を近くで見ている教員だからこそその考えが持てるようにしたいと思いました。

日々、忙しい理由もよくわかりました。子どもの学力をあげる必要もありますが、今は教師も子どもも時間に追われ、心が疲弊している気がします。社会全体、日本の教育のあり方を考えなきゃいけない時だと改めて思いました。ただ現場の先生も、私たちの子どもたちも、今の社会に乗らなくてはならないから、がんばるしかないです。

数値化した説明でわかりやすかったです。日々の業務をこなすのが精一杯でしたが、夏休みの時間的に余裕がある時期にこのような講演が聞けて良かったです。自分にできることを考えていきたいです。要項のチラシについて、講演の終了時刻を載せておいていただ

けると見通しがもてるので、今後お願いしたです。

昔と比べ、子どもたちも私たち教職員も、毎日慌ただしく過ごしている理由について、データをもとにわかりやすく説明していただきました。2 学期からできることは、メリハリのある授業をしていくことがだと思いました。ありがとうございました。

根拠に基づいており、説得力のある講演でした。ありがとうございました。

現状に至るまでの過程等を資料を用いてなぞっていただけたのでなるほどと納得できた。現状の厳しさを改善していくポイントについてもご示唆いただけたありがたかった。大森先生と共に声をあげていこうと思った。

国としての課題（学習指導要領、全国学調）、学校としての課題があると改めて思いました。

漠然とした忙しさに追われ、余裕のない日々でした。オーバーカリキュラムという現状を私たちがしっかり把握することで、どう対応しなくてはいけないのかがわかりました。学校全体で、考え取り組んでいかなくてはならないと思いました。

昨今、取り巻く教育環境や教育の変容を改めて学ぶ機会となりました。日常的には知り得ないこと、例えば教科の年間配當時数の推移がどのような経緯で変動しているのか。各教科における特性について国政がどのように認知しているのか。考えさせられる場面が多くありました。逼迫した教育現場を変えるのは政治なのか教育委員会なのか、いえ私達教職員の一步が大切なのではないのでしょうか。大森先生からかけていただいた期待を胸に、我々教職員が一丸となった働きかけていかなければならないと実感しました。本日はありがとうございました。

教務主任をしており、カリキュラムオーバーロードについて学びたいと、本日参加いたしました。パネルディスカッションの中で先生がお話されていた各学校の工夫、裁量の例としてモジュール、午前中5時間などの日課表の工夫や教師集団が話し合って学習内容の精選を行うこと等について、本校でも今後取り入れていければと思います。

近年、現場において話題となっている事項について、本当にわかりやすく説明していただいた。また、国の施策はともかく、現場でできることについて、かなり踏み込んだ形でご提案いただけたこともありがたい。長く「教諭」を経験した立場からいうと、提案にある「特別活動 70 時間」というのが、非常に興味深かった。来年度の教育課程編成に向けて、学級活動&生徒会活動を再整理するだけでも、オーバーロード解消のきっかけを得られるかもしれない。

標準時数の変遷やその背景について経年でお話をしていただき、子供たちの負担や職員の負担増を感じた。今後の具体的な改善策の案を聞くことで今後の方向性を見出すことができた。

カリキュラム・オーバーロードへの対策として多くの提言をいただいた。どれも今の学校に必要と思えるものであったが、講師の先生が言われたように一遍に全部は余計な軋轢を生むと考えられるので、学校現場として取り組めること、そして効果が期待できることから実施できるよう考えていきたい。

カリキュラムの歴史も納得できた。今の時代に合ったカリキュラムづくりが各学校で必要。文科省は、1015 時間の重みを感じてほしい。教科書を教えるのではないことを校長としては、言っています。学ぶべき内容が多すぎる、もっと余裕を持って、実体験や、端末を使った授業を作っていく。

働き方改革を行うのとあわせて、カリキュラ

ムオーバーロードの現状について声をあげていくことが重要だと感じた。

カリキュラムオーバーロードについて、データを示しながらわかりやすくご講演いただきありがとうございました。指導内容の削減にはネガティブなイメージがありましたが、むしろ子どもたちのためになるのではないかと、という意見にも触れることができ、新たな発見がありました。

現在の教育課題を考える上では、教育課程の見直しは不可避だと考えます。子どもたちも教師も余裕をもって力を発揮できる教育課程になるように考えていきたいです。

漠然と感じていた多忙感、余裕の無さを、先生の提示していただいた資料の中での数多くのデータから実感として感じることができました。私自身、四つの指導要領を体験しており、先生方のアンケート結果と大森先生の考察とで、大変わかりやすく考えることができました。今こそ、現場を1番わかっている私達が声を上げなくてはならないのですね。目から鱗のようなこともたくさんありました。本日はありがとうございました。

大森先生のお話を拝聴して、国で決めていることだからやらなくてはならない、となんの疑問も持たずに教師生活を送ってきたことに情けなさを感じました。時数にしても、学習内容にしても、目の前の子どもの様子を一番わかっている教師が疑問を感じてやらないといけないと思いました。そのためには、子どもを見る教師の力量も向上させていく必要がありますね。子どもと教師の両方に目を向けて、日本の教育を守っていきたいです。ありがとうございました。

今年度から島田小学校では日課表の変更を行い、午前5校時40分授業を完全実施しています。日課表の変更や教育課程の変更、試行期間の設定など大変なこともありましたが、子どもたちも授業に集中することができた

り、教師も放課後の使える時間が長くなったり良いこともたくさんありました。そのことを、今日の講演の中で大森先生のお話をきいて、実感することができました。大森先生の話にあったように、標準時数を意識しての教育課程の編成が大変だったこと、そして子どもたちも教職員もたくさんの学習内容に疲弊していることなど本当にそうだなと思いました。日課表や教育課程の改定に加えて、自由震度学習を取り入れた授業改善に取り組みながら、子どもたちも教職員も少しゆとりが持てるようになってきたことを1学期を過ぎてみて感じました。

カリキュラムオーバーロードの課題を再確認できた。

教育課程編成に当たって最低限の意識で作成し、市教委からも指導があるが、最終報告はない。計画に近い形で取組む努力はしているのが現実で、時数が足りなくても先生方は工夫して終わらせている。そのことを踏まえると、やはり経験豊かな先生の実感に任せるのではなく、きちっとした形を国が示す事が必要かと強く感じます。また、入試のあり方も今後、検討が必要になると感じました。

自分たちが抱えていた業務の圧迫感が言語化されており、すごく勉強になった。しかし指導要領が変わらないことにはその圧迫感はなくなる。今だからこそ、こうした問題に声を上げていかなくてはいけないんだなと思った。

私は4期経験教員ですが、授業時数の提示等、非常にわかりやすい内容でした。今後は授業内容の精選をした上での授業時数の削減を目指していきたいです。闇雲に、時数だけ減らされても、現場の負担は大きくなるだけのような気がします。

大森先生のお話にはしっかりと根拠、裏付けがあり、説得力がありました。

具体的な数字を出して説明してくださったので、わかりやすかったです。

私達が歩んできた教員人生の背景がよくわかった。そうだったなとかだから忙しかったんだとかこれでいいのかなとか若いながらに思ったが、その日の忙しさに深掘りすることは無かった。しかし、やりがいがあった日々だったと思う。それは時間を気にせずやって来てしまったからだとも思う。勤務時間の中で子どもとふれあい、やりたいことができる教育課程基準をまずは出していただきさらに学校で子どもに合った教育課程を進めたい。ありがとうございました。

とてもわかり易く意義ある内容だった。

学習指導要領や標準時数の変遷をわかりやすく示していただき、なんとなく感じていた多忙感や違和感の要因の1つに気づけた気がしました。根本的に変わらなければどうしようもないことに対して不満を言うだけでは現状何も変わらないので、自分ができることをまずはやってみようと思いました。具体的には、教科書の扱いについて勇気をもって軽重をつけることです。高校入試のことを考えると、教科書の内容を飛ばしたり軽く扱うことには抵抗があります。しかし、全てをなぞるように扱った結果として今の余裕のなさが生まれているのだとしたら、まずは軽重をつけてやってみる価値は大きいと感じました。

日常の負担感をデータや理論などで明確に示していただき、とても腑に落ちるお話でした。それと同時に、我々教職員が大切にしなければならぬことを改めて考える機会になりました。

現場の苦勞をご理解いただいている方が、学習指導要領改訂の意義を語ってくださることに心強く感じました。裁量を上手く利用しながらも、時数や学習内容削減に向け、声を上げていきたいと思いました。本日はどうもありがとうございました。

学習指導要領と時数の移り変わりを教員人生とともに振り替えることができました。放課後余裕があり残り勉強をさせたり、バカな話をしたりしていたのが不登校などへ繋がる子どもたちを救っていたのかもしれないなと思いました。しかし、やりすぎの時代でもあったと思います。ビルドビルドで研究面もそうですし、行事面もそう。夏休み冬休みも短く補習、研究会、水泳教室、過度な部活等々そういった積み重ねが今の教員不足にも繋がってきてしまい今日を迎えているのだと思いました。今日のお話から次期指導要領は内容が減り現場の裁量による負担減は少しでも改善されるかとも期待をよせていましたが、まだまだその方向には向いていないようです。現場の裁量による努力は限界です。よくやっています。しかし大森先生が言うように内容が減らない限り、教師と子どもとの関係は薄っぺらになるばかり、塾？よりも勉強だけ教え、一日が終わればさようならというようなサラリーマン学校になりそうで怖いです。教育四者五者で引き続き声をあげていきましょう。今日の資料をすべての先生方にみてもらい学んでもらいたいです、公開はないですか？本日は本当にありがとうございました。

教育の質を担保し、働き方改革を進めていくにあたり、ほとんど唯一手のつけられていない大きな課題の一つが教育課程であると思います。国の審議にも注目しているところですが、国にとって最も手軽な方法は、各学校の「裁量」に委ねる方法なのだろうと思っていたところ、本日も同じような話がありました。学習指導要領改訂にあたり、運動論として声をあげていくのと同時に、単元デザインの授業力やカリマネの力量を各教師が向上させていくことも重要であると感じています。貴重な時間をありがとうございました。

時数の縛りで困る場面がたくさんあります。標準時数でなくガイドラインの制定のお話を聞き共感しました。皆さんと声をあげていきたいです。

資料に示された具体的な数字、教育課程基準の変遷等、とても興味深く、考えさせられるお話でした。現場の声を発信して、次回の改定に反映させられようとしていきたいと強く思いました。

教育課程のこれまでの変遷を振り返りながら、これからどうしていくか、どうしたいかということを考えさせられる内容でした。内容の改訂はなかなか進まないことを踏まえると、学校での工夫を考えていかなければならないところが大きいと感じました。他校とも情報共有し、よりよい教育課程になるようにしていきたい。

実際のデータを基にご公演を進めて頂いたことで、カリキュラム・オーバーロードが早急の課題だということを改めて感じた。

カリキュラムの変遷など、普段日々の業務に追われて考えることができない内容について知り考えることができた貴重な時間だった。

時間外勤務の削減や「働き方改革」が言われ続けていますが、学校現場での取り組みには限界を感じています。本日の大森先生のお話にあったようにカリキュラムオーバーロードの視点から変革をしていくことで、上記の課題について、解決の糸口が見えてくるのではないかと感じました。

現場の実情から、今後のカリキュラムがどうあるべきか考えることができた。

子どもたち、そして私たち教職員の幸せを願い、今だからできる大切なことを見つめ直し、職員と実践に繋いでいこうと思いました。まずは、教える内容をしっかり調整した授業改善について、再確認します。

数値を用いてお話ししてくださったのでわかりやすかったです。まだまだ経験が浅いですが、求められるものが高まっていると改めて感じました。

カリキュラム・オーバーロードについての知見が深まりました。ただ、問題意識がないとは言いませんが、我々に決定する権限がないことなので、1教員としては2学期からの授業や学校教育に生かせるかはわかりません。指導事項は世の中を反映していると思います。医者がガイドラインをつくることと、教員が指導事項に関してガイドラインを作ることが同列に話して良いのか疑問でした。義務教育の意義について考えたいです。

過去のデータやアンケートの統計など、具体的な情報をもとに理論的な解説でわかりやすかった。自由な時間が増えれば、もっと子供たちのために考える時間が増えると感じた。

現状については多くの場面で聞く機会が増えてきた。ただこの改善を図ることが結局は現場でしか行われていないのではあまり意味がないように思う。国に対する投げかけなどをもっと充実させるために必要なことを我々が知っていくべきではないかと思う。また、子どもに求める資質・能力の基準を変えていくことも1つポイントになるのではないかな。現行の学習指導要領で求められるものを実現するには時数を減らすというのはなかなか難しいように感じる。そういった部分までもきちんと評価していくことが大切であると思う。現場での努力次第では変わる部分があったとしてもそうしたことをしてしまえば、国などは結局放置する。それでは意味がない。

教育課程や授業時数に焦点を当てて議論することは少なかったなので、大変参考になりました。ありがとうございました。

カリキュラムオーバーロードの現状や、その現状がどのように子どもたちや教職員に影響を与えているかが数値や生の声として感じられる資料とご講演でした。ありがとうございました。現場の我々の声がガイドラインに反映されたり、標準時数の捉えが見直され、子どもたちが学びやすく、教職員がやりがい

を持って働けるためにできることをしていきたいです。不登校の要因の一つに学力不振があるといいます。カリキュラムが多いことで子どもの負担感につながり、自己肯定感も低下する一因になっていると思います。現状を是正していくことが子どもや我々のためになると思います。学調の抽出など、その他にも多くの学びがありました。本当にありがとうございました。

カリキュラムオーバーロードについて、これまで自分自身が苦しんでいた問題の一因が、このカリキュラムオーバーロードに起因する物なのだと教えていただき、少し気が楽になった。やはり現状の教育課程を真面目に全部やっついてはこちらも大変だし、子供たちも疲弊させてしまうのだということを大森先生に言っていただき、これからの自分の実践を改めていこうと感じた。

正直毎日の仕事を乗り切ることで精一杯です。改めてカリキュラムが器（授業時数）から溢れており、無理やり詰め込んでいるのかを大森先生の講演を拝聴して理解できました。また時間割がコロコロ変わるのは当たり前になってしまいましたが子どもの頃そんなことはなかったことも思い出しました。様々なことが煩雑になってきていると感じます。色々なことを見直す段階に入っていると感じます。教育四者一人一人が声をあげていき未来の子どもたちのためにカリキュラムをより良いものにしていけることができればと思います。本日はありがとうございました。

具体的数字を挙げて説得力をもたせてくれた。

今の自分の立場で何ができるか、考えたい。カリキュラムマネジメントを見直し、学校組織としてできることを今後に向けて考えていきたい。

大森先生ご公演の方ありがとうございました。私自身カリキュラム・オーバーロードと

という言葉は聞いたことがありませんでした。確かに昔に比べると、あまり余裕もなく教育課程を終わらせようと必死にやっている自分があります。もう少しゆとりがあったら先生方も生徒も楽になるんじゃないかと感じたときもあります。ぜひ声を上げて、教育課程の時数等変えていきたいです。

納得、実感を伴う学びの多い時間でした。教育課程基準の変遷、標準時数の変遷を、数値として改めて見る良い機会となりました。多忙感の原因の一つを実感しました。ありがとうございました。

一日の時数が多いことで、子どもも先生方も疲弊しているのが現状のように感じます。僅かな放課後の時間で学級事務や教材研究を行うことは不可能に近く、働き方改革にはほど遠い。

教師の生の声をグラフ等にまとめて分かりやすく説明していただきました。ぜひ、教師の声を届けていただきたいと思います。

よくあるような通り一遍の理想論や正論だけではなく、調査等のデータに基づいた現場の様子をしっかりと踏まえていただいた中でのお話で、大きく頷きながら聴かせていただいた。特に、時数ガイドラインの提案には大賛成の部分が多く、改めて現場からの声を上げていくことが大切だと感じた。

私たち教職員や子どもたち、学校が置かれている状況を数値を示し、大変わかりやすく説明していただいた。仕方ないで終わらせるのではなく、疑問をもち、できることを考え取り組んでいきたい。

実証的かつ歴史的な資料が説得的であった。

大森先生がおっしゃるようになれば、本当に素晴らしいことだなと思った。そうしたいという思いは強いし、やったほうが良いと思う。しかし、現場の工夫だけではそこまではいか

ず、やはり、大本の内容を削減すべきであると思うが、現実ゆとり教育へ舵を取ったあとの振り返しも大きく、今後内容を本当に削減することができるのか疑問である。

次期学習指導要領の議論が始まっている中で、大変興味深い内容だった。カリキュラムオーバーロードについても、これまでの授業時数等の変遷お話しいただくなかで今後のことについて考えるきっかけとなった。

教師や子どもたちが疲弊しないように学校生活を送ることが大前提であり、学習が楽しくできるような環境を整えることが時数の見直しであったり、学習内容の精選なのだと思う。現場の先生一人ひとりが考えていくことから始めていけたらと思う。私もこの研究会に参加させてもらい、初めて知ったこともあったので、全職員で考える時間をとっていけたらと思う。

カリキュラムの歴史的背景や変遷について学ぶことができて良かった

カリキュラム・オーバーロードをデータで示してくださったことで、説得力がありわかりやすかったです。

最新の情報で大変よかったです。

大変勉強になりました。このようなお話は普段なかなか聴く機会が少ないのでとても良かったです。

カリキュラムの歴史について詳しく知ることができ、大変興味深かったです。

データに基づく説明で、歴史から現状まで大変わかりやすくご説明いただけてよかった。

カリキュラム・オーバーロードについて今まで何となく考えていたことが、具体的な数値を挙げてわかりやすく再確認することができ

ました。講師の先生がおっしゃっていた子どもの学習と生活に合った標準時数を定めて、その枠内で内容基準を決めることが大切だと強く感じました。

わかりやすい講演でした。資料もよかったです。

近年の学習指導要領改訂によるカリキュラム・オーバーロードは、教員だけでなく子どもたちにも過大な負担をかけていると再認識しました。特に、平日1日の授業時数の増加が、子どものゆとりを奪い、放課後の補習や教員との対話の時間も減っているという指摘はごもつともと感じました。不登校の増加にも影響している可能性があり、早急な対策が必要だと感じました。

働き方、カリキュラムについて考える機会となりました。教育課程の変遷について知ることはこれからの教育課程の在り方を考える上で重要な視点だと改めて感じました。

喫緊の課題であるカリキュラムオーバーロードについて、深く考えることができました。大森先生から教わったことをこれからにつなげていきたい。

学習指導要領改訂と標準時数等の変遷について丁寧に解説していただき、大変勉強になりました。やはり、まずその変遷の過程を知ること、そして現場の私たち教員が、子どもたちの思いを踏まえて声を上げることが大切であることを実感しました。学校全体に共有していきたいと思います。

私達が、これまでの知見を訴える必要性がよく理解できました。ただ、それを受け入れてもらえるのか、また、どこで訴えればいいのか等、疑問も残りました。

働き方改革に向けて必要な知見を広げることができた。

そんな見方があったのか！と目から鱗でした。自分が思っている当たり前は、実は当たり前ではなく思い込みだったことが分かりました。

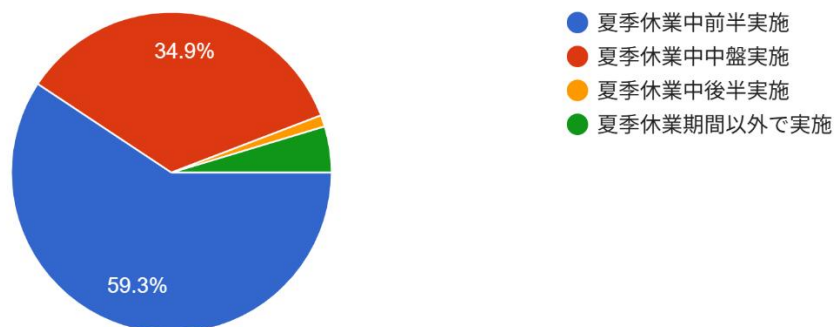
時数についての数値比較をあらためて見ることによって、経験からの感覚だけでなく数値としてどのように変化してきたのかがわかりました。また、学習内容の削減についての意見も興味深かったです。

大森先生より、カリキュラム・オーバーロードについて、学習指導要領と絡めながら分かりやすくご講演いただき、大変勉強になりました。具体的な資料等をご提示いただき、カリキュラム・オーバーロードについて、より知見を深めることができました。また後半では、意見交換の場も設定していただき、大森先生だけでなく他の先生方のお話も伺うことができ、学習を深めることができました。ありがとうございました。

子どもたちに豊かな学びを受けるために考えるべきことや、課題点などお話いただき大変参考になりました。

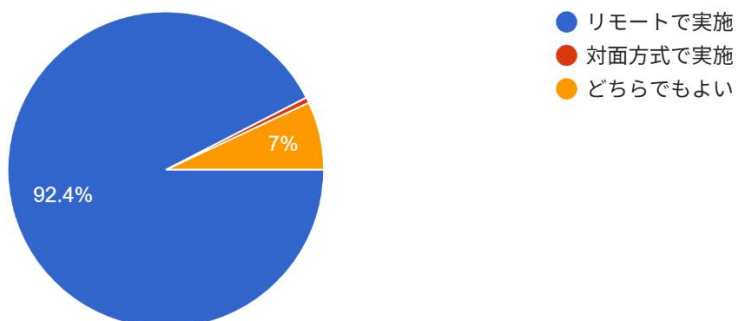
公開研究会の開催時期について

172 件の回答



公開研究会の開催方法

172 件の回答



公開研究会の内容（講演内容）

内容ではないのですが、開始時刻に加え、終了時刻を通知していただけると助かります

次期学習指導要領

今私たちにできることが具体的にわかる内容
ありがたい

来年も次期学習指導要領に関わる内容をお願いしたいです。

通常学級にいるグレーゾーンの子どもたちへの個別最適な指導・支援

また大森先生のお話をお聞きしたいです。

教科指導の中の、時数に含まれない活動を考えて欲しいです。例えば、国語の教科書にある時数の中には、感じの指導時間やテスト、直しは含まれず、オーバーを余儀なくされること。

授業形態（一斉学習・自由進度学習・複線型学習など）について専門的に知りたいです。

5年後、10年後の教育情勢予想。また、そのための課題と対策。（加速度的に進展する社会と教育情勢。生成AIの登場。この5年、10年で対応できるように。）

今回のように、喫緊の教育課題について専門的な視点からのお話を聞きたいと思います。

貧困家庭や、愛着形成ができない家庭に付いての学習会。家庭教育の重要性が叫ばれているが、など、知りたい。PTAの参加も積極的に行えれば良い。

少子化の進行とその対策について 教職員の働き方改革について など

次期学習指導要領改訂の情報 働き方改革の実際

学校現場を客観的にみられる方からお話を伺ってみたいです。

学校の課題解決につながる内容を希望します。

今こそ「ゆとり教育」を考える等

特別支援教育に関する内容

次期学習指導要領のこと

タイムリーで、最新の教育動向に関する講演を希望します。

今井むつみさんのたつじんテスト等、昨今の生徒児童の理解度についての話や授業に生かせる話を聞きたいです。

カリキュラムオーバーロード解決に関して、今進められている具体的な取り組みや実践。

その時々新しい視点を学べる内容であると嬉しいです

働き方改革の実際。進んでいるのか？進んでいないのか？自分たちができることは？客観的なデータをもとに知りたいです。

喫緊の課題について話が聞けてよかったです。

ICTの教育効果による実証的研究・・・ICTの活用が進められているが、一方ではICT先進国での見直しや、ICTの活用についての教育関係者の疑問も聞かれる。ICT推進の政治・経済的背景及び、ICT活用の教育学的な実証的研究について学びたい。

今回のように時事的な課題について取り上げて欲しいです

学習指導要領についてなど。	様々な面において、日頃より大変お世話になっております。今度ともよろしく願いいたします。
普段なかなかゆっくり考えることができない教育課題について考える機会となるとありがたいです。	何度か参加させていただいていますが、毎回とても刺激のある…正直、現場の動きとは少し違いますが、私自身新たな考え・気づきにつながるとも素晴らしい講演・研究会だなと感じています。ありがとうございました。
次期学習指導要領についての学習会	いつもありがとうございます。
今後も喫緊の課題に対応したものを希望します。	講演の資料を実はダウンロードできずに終わってしまいました。講演中は、先生が画面共有してくださったので、見ながらお話を聞くことができました。もしできれば、別の方法で資料を改めて頂けると助かります。
今回同様、教育における最新の話題や課題について扱っていただけると幸いです。	教育課程説明会とのブッキングは、避けてもらいたい。
教育研究所への御意見・御希望	一人ひとりにゆたかな教育を実現するために、企画運営ありがとうございました。
研究に関する様々な情報を提供いただきありがとうございます。	いつもありがとうございます。
毎年勉強させていただいています。運営に大変感謝するとともに、来年度以降も期待しています。ありがとうございました。	いつもありがとうございます
ご準備等ありがとうございました。酷暑です。ご自愛ください。	スムーズな進行でわかりやすかったです。準備等、お疲れ様でした。
貴重な学習の機会をありがとうございました。	30周年おめでとうございます。今後ともよろしく願いいたします。
運営等、ありがとうございました。たくさんの先生方に参加していただく上でも、県の教育課程説明会の時期とはずらした方がよいかと思いました。	終了時間の目安を示してもらいたい。15:30に終了するとは思わなかった。
最後のアンケートは事前の通知に QR コードと URL を載せていただきたい。	貴重な研修の場を与えていただきありがとうございました。
研究会の企画運営たいへんおつかれさまでした。また、本日は、意見交換にも参加させていただきました。今後につながる良い機会となりました。	いつもありがとうございます。

我々教職員にとって不可欠な内容について研究会を実施していただきありがとうございました。研究会の内容を、今後の教育実践に生かしていきたいと思います。	いつもありがとうございます。
ありがとうございました。大変勉強になりました。	公開研究会をオンラインにいただき、大変助かりました。時間も2時間でしたので、この後、少し仕事ができたりあるいは時間休を取れたりすると思います。夏季休業中としては、とてもありがたいです。
ありがとうございました。	ありがとうございました。
日々感じていることを実際に聞けて大変勉強になりました。ありがとうございました。	講演資料の配布をして欲しいです。今回、案内のメール・文章も見落としていました。資料の配布情報も見落としてしまっていたかもしれません。
現場の困り感を共有していただき、ありがとうございます。	資料やアンケートのQRコードがチャットに上がっていましたが、事前に提示していただけると印刷でき、より理解度が高まると思いました。
遠方のため、リモートで開催いただいて感謝いたします。	いろいろありがとうございます。最新の情報提供などよろしくお願いします。
公開研究日を県の教育課程説明会の日とずらしていただけるとありがたいです。小規模校は、参加体制が難しいです。	学びの機会を設定していただき、ありがとうございました。
本日はありがとうございました。貴重な時間を過ごすことができました。	毎年、大変有意義なご講義を企画して頂き、新たな視点を学ぶことができています。
現場の私達にとって有意義なテーマでの公開研究会を開催していただき、ありがとうございました。	教育課程説明会と日程が被って参加調整に苦労した。長期休業中でも参加しやすい日程がありがたい。
今日的な課題として大森先生からわかりやすくお話ししていただき、とても良かったです。ありがとうございました！	公開研究会、誠にありがとうございました。また夏休みの友や冬休みの友等でも、子どもたちの学びにつながる取り組みをいつもありがとうございます。今後とも多くのことを学ばせていただければと思います。
いつもありがとうございます。これからもしっかり勉強させていただきます。	カリキュラム・オーバーロードについて、立ち止まって考える時間となり有意義でした。ありがとうございました。
充実した学びの機会のご提供ありがとうございます。今後とも今日的な教育課題について啓発していただけたら幸いです。	

公開研究会アンケートより

アンケートへの御協力ありがとうございました。

講演の内容についても、多くの方が関心を持っていることであり、かつ講演も具体的な数値を提示し分かりやすく、良い講演だったと評価をいただきました。

公開研究会の時期について

夏期休業中の前半から中盤といった時期が妥当という御意見をいただきました。

講演の内容について

御意見からも伺えるように、今日的な教育課題、喫緊の課題等、教育現場に還元できるような内容を用意して参ります。

開催方法について

リモート開催に切り替えて本年度で4回目となります。平日の勤務日の開催であること、集会とした場合、県下から集まるという移動への負担等を考え、今後もリモート開催で実施することを考えています。

開催日について

県教委の教育課程説明会と同日の開催となっています。被らない日に設定してほしいという意見、お考えは多いと思います。この時期、各地域の研究会・研修会、校長会、教頭会の行事も設定されており、単独で開催日を設定することは困難な状況です。教育課程説明会とのブッキングを避けた場合、他の複数の会と重なり、参加が難しくなると考えました。小規模校（職員数の少ない学校）には、やりくりが大変なことも承知していますが、このような考えから、教育課程説明会との同日開催に踏み切りました。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

御協力ありがとうございました